

社会 第3学年 1 畑ではたらく人びとの仕事(選択単元) 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「農家は、作物を育て届けるためにどんな工夫をしているだろうか」について、比較した資料や記録から根拠を選び、事実と自分の考えを区別して説明している。結論の暗唱ではなく、根拠の箇所を指し示せるかを見取る。本時は単元で集めた記録を整理する時間として置く。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：地域で育てる作物の作業暦と栽培・出荷の資料を読む。種まきから収穫までの仕事を並べ、品質を保つ工夫を季節や届け先と関係付ける。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。(2)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：収穫だけが仕事という説明には苗づくりや日々の管理の記録を示す。全国どこでも同じ作業日とはしない。予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。(2)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。農家と地域の関わりを説明する活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：農地へ無断で入らず、農薬や農機に触れない。試食は必須にしない。実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、(2)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：地域で育てる作物の作業暦と栽培・出荷の資料を読む。種まきから収穫までの仕事を並べ、品質を保つ工夫を季節や届け先と関係付ける。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全9時間は日本文教出版の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「農家は、作物を育て届けるためにどんな工夫をしているだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「農家は、作物を育て届けるためにどんな工夫をしているだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。農家と地域の関わりを説明する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

